

# 大変なことになっていたぞ!

# 速報

# M副長新聞

魂消たごと、緊急に知らせたい場合だけ発行なのだ!



2009.2.3

私は チーム・マイナス6%です

\* 孟宗竹の生い茂るボーイ隊長の秘密の『富士山に沈む夕陽の鑑賞会』ポイントである牛久城跡は、牛久沼畔の丘陵あり、今からおよそ五百年前の戦国時代に在地領主の岡見氏が築城したと伝えられている。豊臣秀吉の関東攻めがあった天正十八年(1590年)に小田原の北条氏と共に岡見氏が滅亡した後、上野金山城主であった由良国繁が入城したが、元和七年(1621年)に由良氏が除封になり廃城になった。

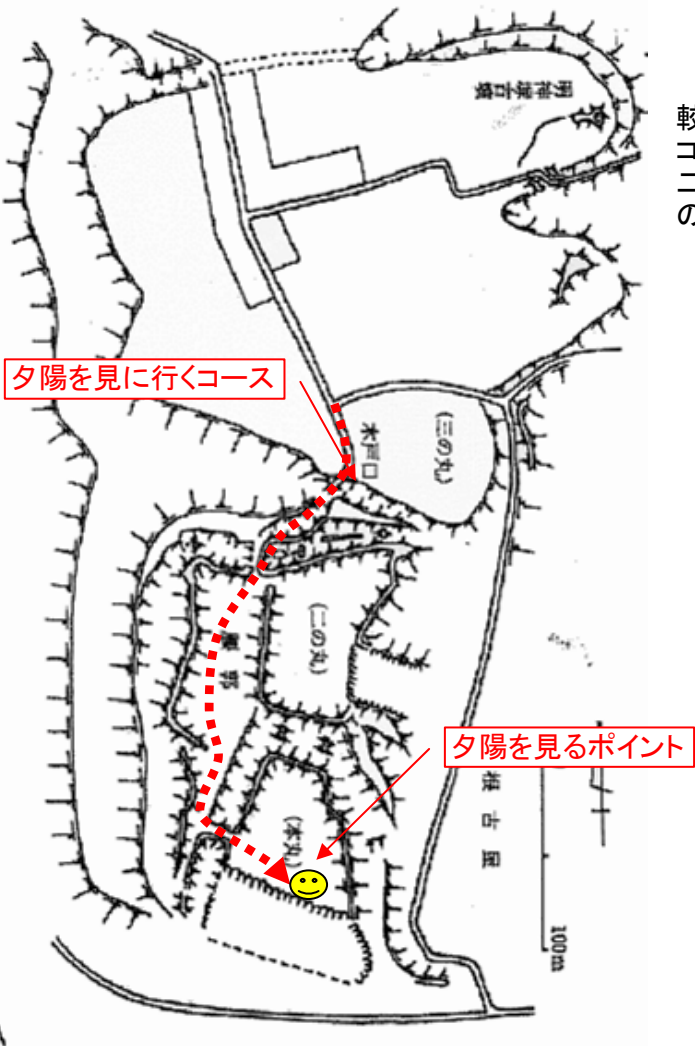
# 牛久城址

土曜日のカブ隊ミステリーツアーの、上り常磐線車内からふと牛久城址を見るとなんと! 木や竹林がスカスカになっており、向こう側の空が見えるではないか! 以前、ボーイ隊長からは牛久城址の整備のため竹を切っているようだ。竹が欲しいなら今がチャンスとの情報を得ていたがまさかこんなことになっているとは! 早速ボーイ隊長と合流し昨日の日曜日様子を伺ってきた。それは、常識を超える出来事であったがな。

牛久城址エリア



平成20年12月に牛久市景観計画(案)は発行された。その中には「牛久沼周辺地域では、豊かな水と緑を本市の貴重な地域資源として位置づけ、自然景観に保全を図ります。当地区における建築物や工作物等は、自然景観を損ねることがないよう規制・誘導を図り、また、展望台の整備や牛久城址の保全の検討を行いながら、アヤメ園、雲魚亭など回遊コースでつなぎ、散策や観光等での活用を図ります。これらの牛久沼を取り巻く保全。整備にあたっては、さらに広域的な観点から、隣接5市連帯での取り組みにも努めます。」「施設の充実」①アヤメ園の拡充整備 ②牛久城址の整備 ③回遊基盤設備(駐車場・休憩室・散策路等)の整備 ④三日月橋生涯学習センターの週計修景整備 とある。今回の出来事はこの計画に基づいたものであると思われる。



左右の図面と、航空写真を比較して見ると、夕陽を見に行くコースは、三の丸の木戸口から二の丸脇を通り、本丸の南側崖の上であることがわかる。



# それがその写真だ！1・2・3

現場で作業を行っている会社の人に聞いたら、10年間はそのままにしておくそうだ。フカフカのチップは土砂崩れ防止のための保水材であろう。(砂防の一種である)



今までの森の入り口の三の丸付近、その名も木戸口ペン草1本も生えていねーぞ。付近では伐採した竹や木を粉碎していた。この地表は、粉碎したチップである。



以前までは、昼間でも暗かったヒノキ林もこの通りも間伐されてスッキリとなっている。土塁(お堀みたいな窪み)と崖の部分は崩れ防止のため、竹や樹木は残してある。

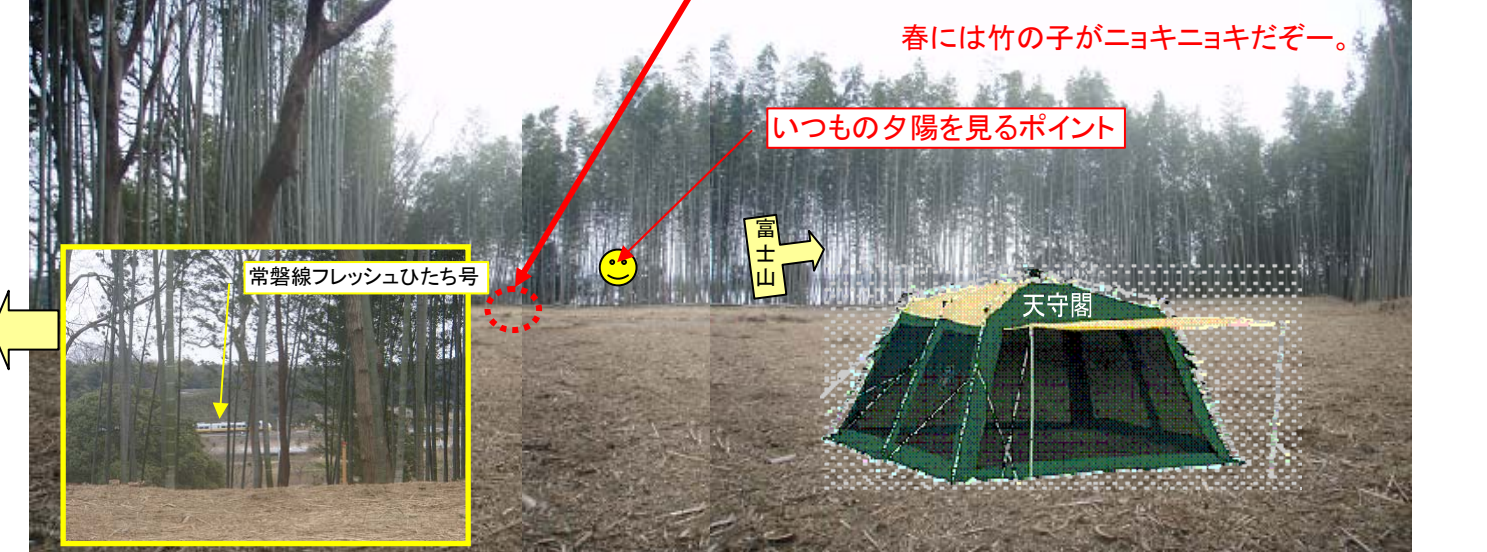


二の丸。以前は円形に少しだけ開けていたが、野球が出来るぐらいスペースである。地表は粉碎したチップでフカフカである。



2004.1.17のビーバー隊「夕日のむこうに」で報告された道祖神？過去の活動報告の写真と比較すると変化が良く分かるぞ。

春には竹の子がニョキニョキだぞー。



いつもの夕陽を見るポイント

常磐線フレッシュひたち号

いつもの夕陽を見るポイントも、ここも野球ができる広さである。ボーイ隊長とM副長は、この激変でおっ魂消(たまげ)てしまっ立ち尽くしてもうたぜ。ボーイ隊長自慢の秘密の場所が、白日の下に去られてしまった。あの道なき道を進み、真っ暗な帰り道が売りであったのだが・・・でも、なんか新しいスカウト活動が出来そうでワクワクもする。ぜひ！キャンプ場も作って貰いたい。\*なお、写真のスクリーンタープは合成であり、決して牛久城本丸ではありません。4月以降(工事は3月末までの予定)緊急探索ハイクを企画せねばならない。**注意！危険なのでスカウトだけで行ってはいかんぞー！**